

有機農業推進の取組 〈生産、加工、流通及び消費の一貫した取組〉

○有機農業推進協議会

「有機農業の推進を通じて、環境負荷の低減を図ることにより、登米市における持続可能な農業の発展を図ることを目的」に設立しています。



実施計画の検討・進捗管理



R6先進地視察（秋田県大潟村・岩手県一関市）



R7先進地視察 山形県米沢市・福島県喜多方市）



有機農業推進の取組 〈生産、加工、流通及び消費の一貫した取組〉

○認証取得の支援

有機農業産地づくり推進事業補助金

有機JAS、県認証等の高度な認証の取得及び更新並びに各種認証制度の資格取得に要する経費を支援



交付対象となる経費	補助金額	限度額
国際水準GAP、有機JAS、県認証等高度な認証の取得に要する経費	対象経費の 4分の3以内の額	なし
国際水準GAP、有機JAS、県認証等高度な認証の更新に要する経費	対象経費の 2分の1以内の額	なし
各種認証制度の資格取得に要する経費	対象経費の 2分の1以内の額	なし

有機農業推進の取組 〈生産、加工、流通及び消費の一貫した取組〉

○有機農業推進セミナー

有機農産物の認知度向上や需要・取組面積の拡大、有機農業者の創出を図るため、**オーガニックプロデューサーを招聘**し、経営の多角化や販売戦略を深掘りし、持続可能で再生産可能な農業を確立する具体的な道筋を見出すことを目的に、セミナーを開催しました。

みどりの食料システム戦略推進総合対策



有機農業推進総合対策事業



有機農業新規参入促進事業

- オーガニックプロデューサーによる産地支援
- ・有機農業関連の取組に関する情報共有等を行うセミナー等の開催

オーガニックプロデューサーとは

日本の**有機農業を広めるために国が派遣する専門家**。生産現場の課題解決から、オーガニック食材を安定的に食卓へ届けるための販路開拓、地域ぐるみのブランドづくりまで、**産地に寄り添い「持続可能な農業」をビジネスの面からサポート**。

講師：オーガニックプロデューサー



五段農園代表
次代の農と食をつくる会 理事



高谷 裕一郎 氏
(たかや ゆういちろう)

オーガニックヴィレッジジャパン代表
次代の農と食をつくる会 副代表理事

種藤 潤 氏
(たねふじ じゅん)

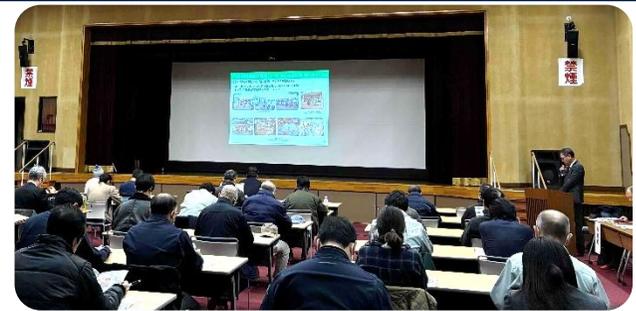


有機農業推進の取組 〈生産、加工、流通及び消費の一貫した取組〉

○有機農業推進セミナー

①事業説明

登米市の有機農業推進について、「オーガニックビレッジ宣言」の背景や、現在の有機農業の現状と課題、「オーガニックビレッジ」としての取組（学校給食への有機米提供や生産支援など）について説明を行いました。



②基調講演

「次代の有機農業をつくる
～持続可能な農業のヒント～」

高谷氏からは「土を育てて、植物を育てる」という視点から、堆肥づくりや土づくりの主役である微生物の重要性について、種藤氏からは有機農業をビジネスや地域づくりの面から捉えるヒントについてお話しいただきました。



③トークセッション

「有機農業の今、これから」

講師のお二人に加え、地元の生産者である大久保芳彦氏（みやぎ登米農業協同組合 南方町水稻部会長）と菅原達徳氏（宮城県指導農業士）をパネラーに迎え、現場の課題や今後の展望について活発な意見交換が行われました。

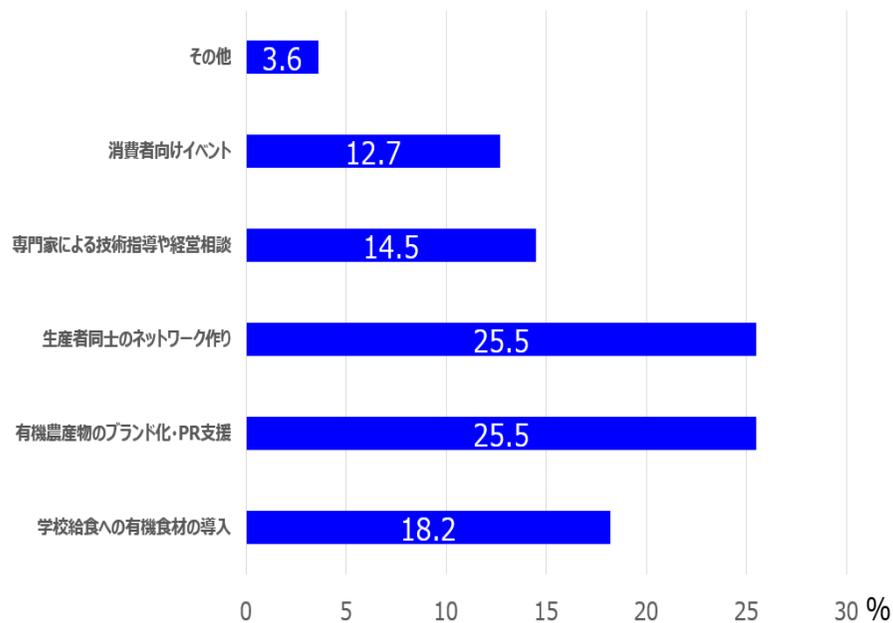


有機農業推進の取組 <生産、加工、流通及び消費の一貫した取組>

○有機農業推進セミナー

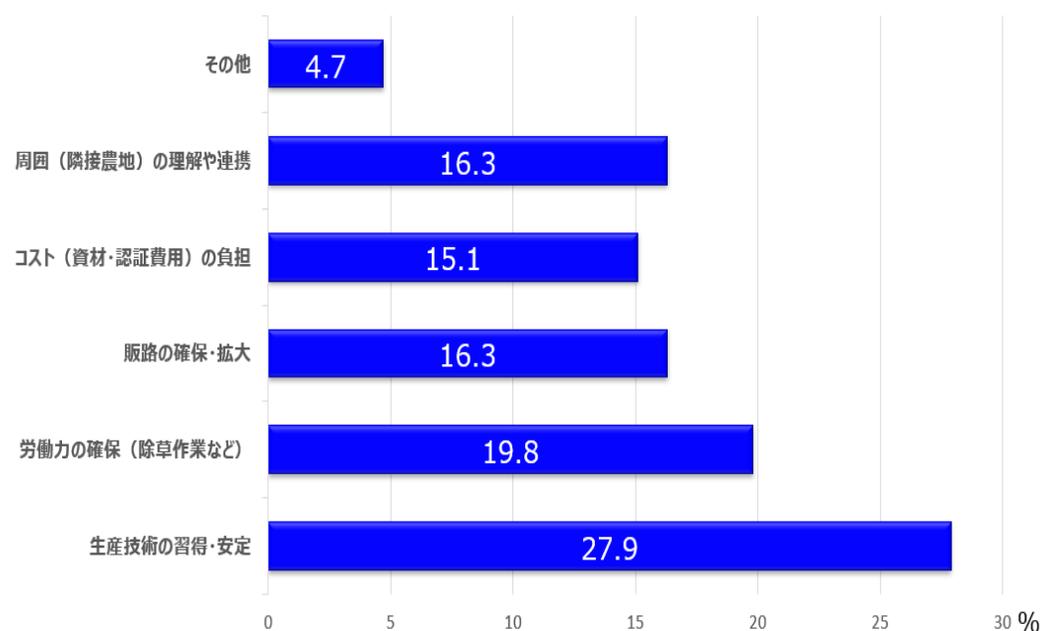
参加者アンケート結果（一部抜粋）

Q 登米市が「オーガニックビレッジ」として、今後力を入れてほしい取組は何ですか？
（複数回答可）



- 「**ブランド化・PR支援**」や「**生産者同士のネットワーク作り**」が最も多いが、生産から消費まで一貫した取組が求められていることが伺える。

Q 有機農業を推進（開始・拡大）する上で、何が課題だと感じますか？
（複数回答可）



- 「**生産技術の習得・安定**」が約3割を占めるが、多様な課題があることが伺える。

有機農業推進の取組 〈生産、加工、流通及び消費の一貫した取組〉

○有機農産物のPR・消費者等からの意見の聴取等

市内外のイベントにおいて、有機農産物（有機米）のPRを実施
併せて、有機農産物に関するアンケートを実施



登米市産業フェスティバル



登米市美味しいもの物産展
(仙台市：フードマーケットフジサキ寺岡店)

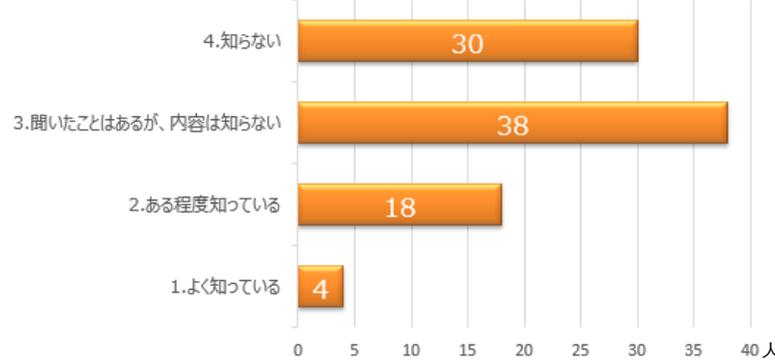


登米市物産展
(さいたま市大宮区：まるまるひがしにほん)

有機農業推進の取組 〈生産、加工、流通及び消費の一貫した取組〉

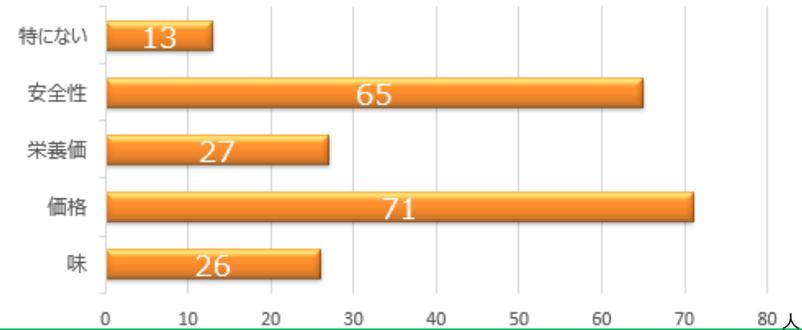
○有機農産物のPR・消費者等からの意見の聴取等 有機農産物に関するアンケート結果（一部抜粋）

Q「オーガニックビレッジ」について知っていますか？



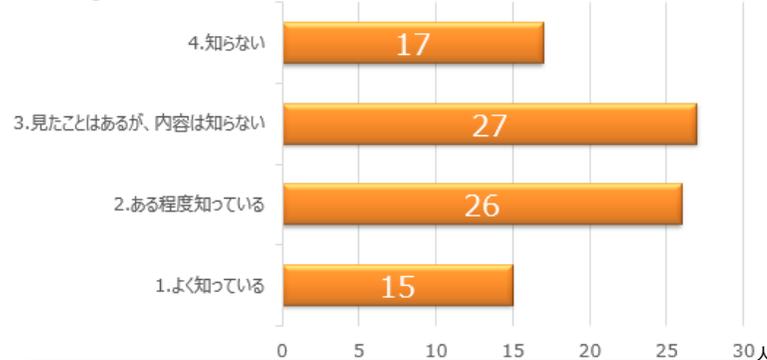
- 「ある程度知っている」以上の回答が全体の1/4、「聞いたことはあるが、内容は知らない」以下の回答が全体の3/4と認知度は低い結果となった。

Q 有機農産物（オーガニック食品）に求めることはありますか？
（複数回答可）



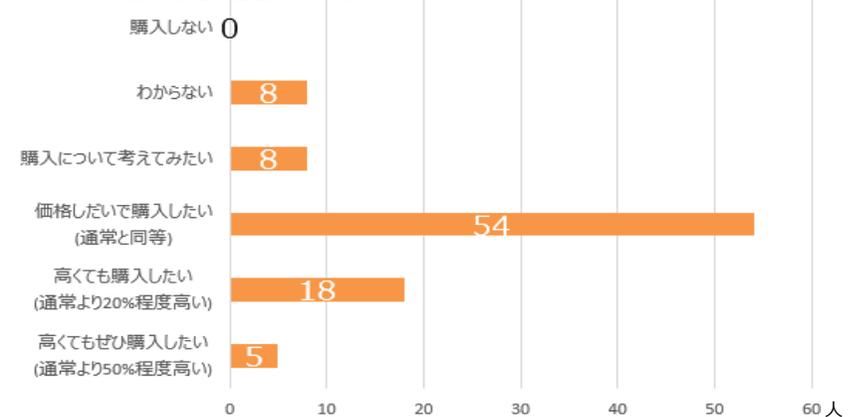
- 「味」や「栄養価」よりも、「価格」「安全性」を求める件数が多く、「食の安全」へのニーズが高いことが伺える。

Q「有機JAS」マークを知っていますか？



- 「ある程度知っている」以上の回答が全体の約5割と、「見たことはある」と回答した方は全体の8割であった。

Q もし有機農産物の価格が通常の農産物より高くなったとしても、購入したいと思いますか？



- 「価格しだいで購入したい」が全体の約6割と最も多く、「購入したい」というニーズが高いことが分かる。

有機農業推進の取組 〈生産、加工、流通及び消費の一貫した取組〉

○学校給食への有機米の提供

「有機農業の日（12月8日）」の特別期間（11月14日～12月14日）に合わせ、有機農業や食への興味・関心を深めていただくため、学校給食へ市内産の有機米を提供しました。

- ・有機米「ひとめぼれ」新米：528kg
- ・園児、児童生徒及び教職員：6,083食（一人1食分）
- ・市内幼稚園（5園）、小学校（19校）、中学校（9校）、市内公立保育園（4施設）



市の広報誌の表紙に掲載



給食センターや保育園と連携し、おいしい給食を作ってもらいました

今日の給食のごはんは、登米市内の農家のみなさんが作った「有機米ひとめぼれ」です！

有機米は、化学肥料や農薬を使わずに育てられたお米のことで、化学肥料や農薬を使わずに育てられるから、みんなの体にもやさしいです。
有機米は、自然の力を使ってじっくり育てられるから、本来の味がしっかりしていて、栄養もたっぷりです、とてもおいしいです！

登米市は「オーガニックビレッジ」です！

登米市は、市全体で自然の力を使って野菜やお米を育てる「有機農業」をすすめる「オーガニックビレッジ」です。
みんなに安全でおいしい食べ物を届けたいと思っています。
みなさんの給食に有機米が届くのも、その取組のひとつです。

有機農業ってなに？

野菜や米をりっぱに育てるために、通常は農薬や化学肥料を使います。しかし、農薬や化学肥料を使わなかったり、減らしたりするやり方もあります。有機農業は、化学肥料や農薬を使わないで自然の力を使った、環境にやさしい農業のやり方です。

有機農業のなにかいいの？

化学肥料や農薬を使わないので、土や水がきれいになり、生きものにやさしいです。虫や雑草に、カエルや虫など、たくさんの生きものといっしょに生きていきます。わたしたちの未来の環境をまもることにつながります。

12月8日は有機農業の日（オーガニックデイ）！
【特別期間：11月14日～12月14日】

2016年に有機農業を広めるために決められました。
有機農業の日 この日をきっかけに有機農業について、調べて、考えてみましょう。

全園児、児童生徒に説明資料を配付

有機農業推進の取組 〈生産、加工、流通及び消費の一貫した取組〉

○学校給食への有機米の提供

生産者から有機米の作り方などについて説明をいただき、児童生徒は環境と食の大切さを学びました。



もちもちしていておいしい！

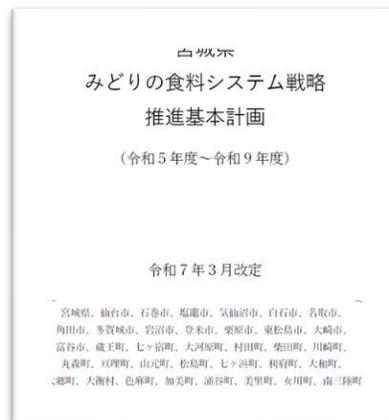
有機米を作るのに生き物の力を借りているのは初めて知りました。これからは作ってくれる人に感謝して食べたいです！

有機農業推進の取組 <生産、加工、流通及び消費の一貫した取組>

〇みどりのシステム戦略の取組



みどり認定取得促進



特定区域の設定

(地域ぐるみで環境負荷低減に取り組むモデル地域)



宮城県みどりトータルサポートチームとの連携



登米市内の「みどり認定」数は、6件 1,395経営体

令和7年8月に、みやぎ登米農業協同組合に対し、みどり認定のグループ認定証が宮城県から交付されています。

みやぎ登米農業協同組合は、平成15年から管内全域で環境保全米（Cタイプ：化学肥料・化学農薬の施用量を県観光の1/2以下とした生産基準）に取り組んでおり、環境保全米（Cタイプ）に取り組む生産者1,379人をまとめてグループ申請し、認定されています。

おわりに

本市の有機農業への取組は、いまだ道半ばではございますが、
今後も関係機関との緊密な連携を図り、持続可能な農業の実現に
向けて着実に歩みを進めてまいります。



ご静聴、ありがとうございました。

登米市産業経済部産業総務課